

# 炭疽病

## (キュウリ)



中央部分が破れた病斑

### ウリ科野菜の病気



炭疽病の分生子

### 特 徴

葉、茎、果実に発生します。葉の病斑は、はじめは小さな黄色の丸い病斑で、のちに拡大して、周縁は褐色、内部は白色となります。病斑の中央部は薄くなり、丸い穴があいて破れます。炭疽病の病斑は、べと病や斑点細菌病の病斑のように葉脈に区切られません。茎や果実には褐色のへこんだ病斑をつくり、多湿時には病斑上に鮭肉色の粘着物をつくります。果実の実害のほか、多発すると生育が抑制されます。

### 原 因

病原菌はかびの一種で、伝染は病斑上にできた分生子が雨滴とともに飛散しておこります。このため、露地栽培で、雨が多いときに発生が多くなります。栽培終了後、病原菌は使用した農業資材に付着したり、被害葉とともに土中に残り、次作の伝染源になります。

### 防 除

- ①密植は避け、通風、採光を良くします。
- ②排水を良くし、過湿を避けます。
- ③窒素質肥料をやりすぎないようにします。
- ④発病葉は次作の伝染源になるので、集めて土中深くに埋めるなど適切に処分します。
- ⑤発生初期から薬剤防除を行います。